AFS NEWS

2017
NO.141

AFS
Intercultural Programs

AFS日本協会の事業

AFS日本協会の事業は、日本の高校生を海外に派遣する「派遣事業」と、海外の高校生を日本に受け入れる「受入事業」の2本柱で成り立っています。ともにメインプログラムは1学年間の交換留学プログラムで、参加生はホームステイをしながら地域社会の一員として生活することで、ホストファミリーや地域ボランティアは彼らをサポートしながら異文化を体験することで、文化・社会・人間への理解を深めます。また、異文化体験や国際交流のより広いニーズに応えるために、語学研修や文化研修を軸とした1ヵ月程度の短期プログラムも企画・運営しています。

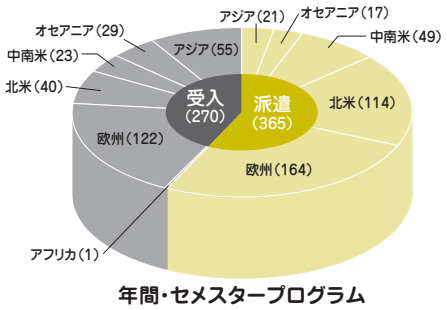
派遣事業は、1954年に8名の高校生を米国に派遣して以来、2016年までに20,341名を47か国に派遣し、受入事業は、1957年に9名の高校生を短期で受け入れて以来、2016年までに17,522名を86か国から受け入れてきました。2004年には多年にわたる国際交流への貢献が認められ、文部科学省大臣より「国際交流功労者文部科学省大臣表彰」を受けました。

事業のご報告

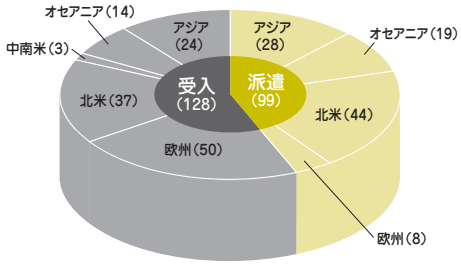
（2016年1月1日～2016年12月31日）

2016年派遣・受入プログラム参加人数

	参加人数	交流国数
受入計	398名	47か国
派遣計	464名	40か国
総合計	862名（50か国）	



年間・セメスタープログラム



短期プログラム

（ ）内は人数

プログラム参加人数累計（1954年～2016年）

	年間・セメスタープログラム		短期プログラム		合　計	
	〈受　入〉	〈派　遣〉	〈受　入〉	〈派　遣〉	〈受　入〉	〈派　遣〉
アジア	1,756	761	3,562	871	5,318	1,632
オセアニア	1,901	1,971	2,474	2,836	4,375	4,807
中南米	714	1,415	66	61	780	1,476
北米	1,687	7,867	2,899	1,718	4,586	9,585
欧州	1,893	2,710	560	110	2,453	2,820
独立国家共同体	0	0	0	20	0	20
アフリカ	6	1	4	0	10	1
合計	7,957	14,725	9,565	5,616	17,522	20,341
総合計	22,682		15,181		37,863	

決算ハイライト

（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

【1】資産状況

（単位:千円）

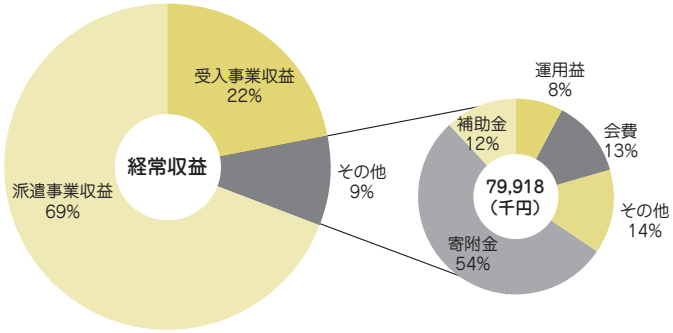
流動資産	701,517	流動負債	380,215
基本財産	459,605	固定負債	35,002
特定資産	96,830		
その他固定資産	31,078	正味財産	873,813
資産合計:	1,289,030	負債/正味財産正味合計：1,289,030	
		正味財産当期増減：	△20,264

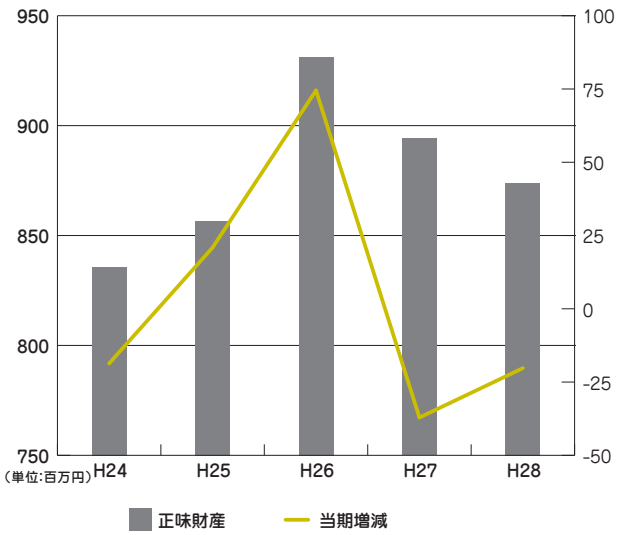
（単位:千円）

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
正味財産	835,780	856,670	931,178	894,077	873,813
当期増減	△18,636	20,890	74,509	△37,102	△20,264

【2】収益の内訳

平成28年度の経常収益の合計：　822,046千円
経常費用の合計：　837,254千円（内管理費：25,938千円）





※派遣事業収益は、主に派遣生の参加費、受入事業収益は、各国からの受入委託収益となっています。
過去5年分の決算要約や評議員等名簿はホームページ（www.afs.or.jp）でご覧いただけます。

ご挨拶

2017年6月30日の理事会にて承認され、7月1日より河野淳子が新事務局長として就任いたしました。

ダイバーシティを生き抜く力を育てる

公益財団法人AFS日本協会　理事・事務局長　河野 淳子

16歳で親元を離れて約一年の異文化体験の旅をして以来、相互理解を目的として世界中で活動するAFSボランティアの精神に魅了され、気づくとフルタイムでその活動を支える事務局員として生きる道を選択していました。AFS活動を応援してくださる寄附者や協力者の皆さま、活動を通じて共に喜び、感動を分かち合うことのできた国内のボランティアの皆さま、帰国生の先輩方や友人たち、海外パートナー国の同僚たちとの出会い、協働、助け合いを通じて、この25年間に実に多くのことを学ばせていただきました。今後は、これまでの経験をもとに活動の原点に立ち返り、地球市民を育成するAFSミッションの推進に貢献してまいりたいと思います。

柔軟で多感な高校時代に、異文化体験による学びの機会を提供するAFSの活動は、二つの世界大戦後に、戦場で救護輸送活動を続けてきたボランティアドライバーたちが切り開いた、ミッション普及の新たな方法でした。戦後70年を経てもなお、この活動が意義をもって世の中に受け入れられていることは、すばらしいことです。それは、AFSの異文化体験が、参加した人たちの人生を変えるほどのインパクトをもち続けてきたからであり、留学生のみならず、ホストファミリー、ホストスクール、受入コミュニティ、それを支える地域ボランティアすべてにプラスの影響をもたらし続けてきたからにほかなりません。

情報化社会は、多様な価値観に接する機会を容易にし、留学をしなくても情報が簡単に入手できるようになった一方で、様々な情報を自らが取捨選択する判断力を求めるようになりました。これは同時に、自分と異なる選択をした人々や他の価値観をもつ人々と折り合いをつけて同じ社会のなかで生きていくことが求められる時代になったことをも意味します。「多様性＝ダイバーシティ」と向き合い、そのなかで生き抜く力をどう育てるかが、社会全体としての共通課題と認識されるなかで、AFSが長年培ってきた異文化対応力向上のノウハウを、いままさに社会に提供し、活用いただく時がきていることを実感します。

AFSの最大の強みは、世界60以上の国・地域で多様な文化背景をもちながら活動する各組織が、ひとつのAFSとしてミッションや価値観を共有し、相互依存の関係で事業を運営している点です。2011年3月に起きた東日本大震災は、そのAFSの強みを日本の私たちが肌で理解した体験でした。来日を10日前に控えた248名の各国の生徒たちに、AFS日本協会は約半年間のプログラム延期または他国への振替という辛い選択を強いなければなりませんでしたが、その際に各国のオフィスがAFS国際本部と連携しながら取った緊急対応は、日本協会や被災した人々への温かい思いやりとAFS精神に満ち溢れた、実に感動的なものでした。

国連の持続的な開発目標（SDGs）4.7には、2030年までにすべての学習者が地球市民教育を受け、文化の多様性を尊重することが目標として掲げられており、AFSもこの目標を支持しています。ダイバーシティを生き抜く力を育てるにあたり、AFSほどふさわしい組織はありません。皆さまとともに手を取り合って、国際社会への貢献を果たしてまいりたいと気持ちを新たにしております。

国際本部で行われたプログラム戦略会議のメンバーと一緒に

プロフィール

茨城県出身。茨城キリスト教学園高等学校在学中の1981年に、AFS28期生としてオーストラリアに留学。津田塾大学在学中はAFS学生ボランティアとして活躍。卒業後は株式会社リクルートに入社。1992年１月にAFS日本協会に入職。国内イベントや広報、派遣受入プログラムの業務担当等を経て、2017年７月より現職。

AFS×駐日スペイン語・ポルトガル語圏大使館×セルバンテス文化センター東京

フィエスタ・ラティーナ ～スペイン語・ポルトガル語圏交換留学の魅力～

2017年５月19日、東京市ヶ谷にあるセルバンテス文化センター東京と AFSの共催イベント「フィエスタ・ラティーナ」が開催されました。このイベントは、スペイン語・ポルトガル語圏への高校生交換留学の魅力を伝えようと AFS帰国生（チリ派遣）で社会人ボランティアの小林千晃さん（現 AFS日本協会理事）を中心に中南米の帰国生の AFSボランティア達が企画、実施しました。当日はコスタリカ大使館、ホンジュラス大使館、パナマ大使館、メキシコ大使館、ボルトガル大使館、ブラジル大使館、ボリビア大使館、エクアドル大使館、合計９か国の駐日大使館が参加、メキシコ大使館が協賛、スペイン大使館等が後援としてご協力くださいました。

第一部はメキシコのダンスパフォーマンスで始まり、ブラジル大使館によるプレゼンテーション、そして、駐日チリ大使館勤務の瀬戸口知沙さん（1995年～1996年AFSチリ派遣）、上智大学勤務の内藤理佳さん（1983年～1984年AFSポルトガル派遣）、国連大学勤務の坐間昇さん（2003年～2004年ブラジル派遣）、セルバンテス文化センター、ブラジル大使館の方々によるパネルディスカッションが行われました。続いてAFS事務局による高校留学の魅力についてのプレゼンテーション、そして第一部のラストではチリ大使館の指導のもと練習を重ねた学生ボランティアがチリダンス“クエカ”を披露しました。

第二部ではチリ大使館とポルトガル大使館の方によるスペイン語、ポルトガル語のワークショップやそれぞれの大使館による各国についてのプレゼンテーションが開催されました。また会場には各大使館のブースが出展され、来場者は各国大使館を周るスタンプラリーを楽しみました。第一部、第二部ともに来場者が一緒に参加して楽しむイベントとなっており、会場は大いに盛り上がりました。

フィエスタ・ラティーナ開催にあたって

AFS日本協会理事　**小林 千晃さん**
独立行政法人国際協力機構　勤務
（AFS46期生　1999年～2000年チリ派遣）

異文化理解は言語の理解ではない。私が高校生だった20年近く前に恩師から授かった言葉です。異文化理解の本質は文化と人種の坩堝であるスペイン/ポルトガル語圏にありとの思いから事務局、学生ボランティア、そして多くの在京大使館の協力を得て開催。当日は150名を超える参加者や学生ボランティアによるダンスや通訳等の大活躍により大成功を収めました。
ラテン化したい地域の皆さま、いつでもお声掛けを！

フィエスタ・ラティーナを通じて

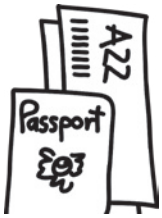
今回AFS帰国生としてチリでの自分自身の経験を皆さんにお伝えすることで、これから世界へ旅立っていく高校生達へ、魅力と可能性のあふれる南米で一年過ごすことの素晴らしさが少しでも伝わり、興味を持ってくださったのなら本当に嬉しく思います。そして高校生での南米留学という貴重な経験が、今後の自身の人生のあらゆる場面において支えとなり、力になることを、ご自身で是非経験して欲しいと思います。

瀬戸口 知沙さん
チリ大使館　農務部　勤務
（AFS42期生　1995年～1996年チリ派遣）

帰国生の皆さまへ
フィエスタ・ラティーナは帰国生の皆さまにより企画・実施されました。皆さまの留学体験をもう一度振り返ってご自身の体験を未来の AFS 生たちへ発信していきませんか。AFS では現在帰国生の皆さまに向けてアンケート調査を行っております。右側の QR コードよりアンケートにご協力ください。

派遣プログラム

年間派遣プログラム



AFS2018年出発年間派遣プログラムでは39か国の地域へ411名を派遣予定です。2019年出発年間派遣プログラムは2018年3月頃情報公開予定です。

ホンジュラス

学校の行事が本当に楽しかった。普段は制服だが、仮装して登校する日がある。全身黒のブラックデイ、同様にホワイトデイ、パジャマ、こどもの日には友達とティンカーベルの５人組になりきったこともある。さらに本格的なマラソン大会が国内でかなりの頻度で開催され、学校の行事の１つとして全校生徒で参加する。ここでの学校生活は私が知っている日本の学校生活とは程遠く、新鮮なもので１番の思い出となった。

（AFS63期生 '16-'17冬組）

フィンランド

ホストファミリー、友達、留学生達、留学して手に入れたものの一つには、「人と繋がる力」があると思う。広大な森の中を犬と散歩し、凍った湖でスケートをし、放課後に友達とカフェに行ったり、ホストファミリーや友達の開いたパーティーに参加したり。日本ではできなかったような体験は、ただ新しい環境にいるだけでは手に入らなかった。自分が人と繋がろうとすることが、その全てに結びついていたのだ。

（AFS63期生 '16-'17夏組）

短期派遣プログラム

インド

インドに行って最も衝撃的だったのは、貧富の差です。他にも湿度を伴った暑さ、スパイスがふんだんに利いた料理、日本人と違った時間感覚等、現地で経験した全てのことが驚きでした。今回の留学で、私は語学力だけではなく海外に対する自分の固定概念の解消、コミュニケーション能力等、様々な面で成長できたと思います。また、貧富の差等、先進国では見られない点も見ることができました。

（2016年短期インド派遣生）

※AFS2018年サマープログラム（短期留学プログラム）は2017年12月中旬頃情報公開、2018年1月より応募受付開始予定です。

中学生派遣プログラム

2016年10月、（公財）かめのり財団主催の中学生交流プログラムが実施されました。第２回目となる今回は2016年10月29日～11月６日の９日間で実施され、一般公募により選抜された10名の中学生が、フィリピンへ渡りました。このプログラムでは「平和について考える」をテーマに中学生たちは出発前までにフィリピンで起きた戦争についての課題に取り組み、現地では第二次世界大戦の戦跡地、サンチャゴ要塞やコレヒドール島を視察しました。また、在フィリピン日本国大使館への表敬訪問を行ったほか、Jacob Z. Gonzales Memorial High School、Makati Science High Schoolへの訪問やホームステイ、シンポジウムへの参加を通じて現地の中高生と交流し、受入国への理解を深めました。

NEW!

ニュージーランド教育体験プログラム　大人向け

2017年新規プログラムとして、ニュージーランドの教育機関と連携した、２～３週間の教育体験プログラムを実施しました。本プログラムは授業体験を通して、トレーニングを受けた現地教師の教育・教授メソッドを学ぶプログラムとなっており、初年度の2017年は日本の小学校から高等学校で教員の職に就いている教師を対象とし、現地にホームステイをしながら、小・中学校の教師アシスタントや授業の参観を行いました。

ニュージーランド教育体験プログラム
～ Talk with people who help you see the different world. ～

銚子市立銚子高等学校　**亀山 綾 先生**

７月23日から３週間、ニュージーランド教育体験プログラムに参加しました。滞在中は、地元のSouth Wellington Intermediate Schoolという中学校で研修をしました。最初の一週間はホームルームと各授業を参観し、二週目以降はホームルームや日本語の授業に参加し、自分や日本の文化を紹介したり、日本語を教えたりしました。

ニュージーランドの教育は日本で抱く学校のイメージとは大きく異なり、研修が始まってしばらくはとにかく驚きの連続でした。日本の文化に強く興味を持つ子ども達も多く、積極的に話しかけてくれる子ども達とのコミュニケーションを通して、外から見える日本のイメージを知ることができました。研修期間中、地元の高校に行き日本語の授業に参加しました。その高校では二人の先生が日本語を教えており、高等学校の日本語教育は中学校と比べかなり専門的な内容を扱っていました。先生方の日本語力の高さにも驚きました。研修最終日には、日本語を教える教員向けのワークショップに参加しました。参加していた先生方の熱心な姿勢がとても印象に残り、日本で英語を教える立場としてとても考えさせられる時間となりました。（全文は「AFS ニュージーランド教育体験プログラム」で検索）

各種ニュースや体験談はホームページ（www.afs.or.jp）でご覧いただけます。

東京都留学生事業

2017年東京都教育庁のプログラムの一つである東京都留学生事業を受託しました。この事業は国際理解推進を目的とし、７月と12月に東京都の公立高校で実施されます。第１回目は７月８日から7月19日に実施、アメリカから10名の高校生が来日しました。来日した高校生たちはオリエンテーションを受けた後、立川・杉並・町田の３地域へ配属、プログラム期間中は、ホストブラザー・シスターとともに都立高校へ通学しました。また、東京都教育庁が主催した課外授業では、高尾山を訪れ自然豊かな東京の顔を体験し、別の日にはホストブラザー /シスターと共に茶道体験や原宿散策を行いました。12日間の短い滞在でしたが、東京の生活を満喫し、帰国の途につきました。

12月には、オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、タイから合計約70名の留学生が本プログラムにより来日する予定です。

支部活動

AFS の活動を支えているのは、世界４万人以上のボランティアです。現在、日本には全国各地に75の支部と４の学生部がありますが、メンバーは全員が報酬を受け取らないボランティアで、それぞれの知識と経験を生かしながら、地域コミュニティの中で派遣内定生や留学生を支えています。AFSの受け入れにご協力いただきましたホストファミリー、ホストスクール、そして留学生をサポートしてくださった支部の皆さまに心よりお礼を申し上げます。

● 2016年の活動

お茶会にお招きいただきました（尾三支部）

10月16日にNPOみちてる主催の瑠璃茶会に６名の留学生をお招きいただきました。竹灯籠やかがり火、季節の花々に迎えられ、門をくぐるとなんと和楽器の調べ。めったに見ることができない笙や竜笛、琴などの演奏を間近で聞かせていただき、さらに実際に手に取って音を出すこともさせていただきました。

留学生の松前町･松前高等学校訪問（札幌支部･帯広支部･岩手支部）

札幌支部および帯広支部・岩手支部の５名の留学生が11月６日から12日の間、北海道開拓の歴史の深い道南の松前高校にホームステイしながら滞在しました。町長表敬訪問、松前城見学などを行い、期間中は中学校に訪問し自国の紹介をしたり、地域の民芸交流を行ったり、大変充実した時間を過ごし、思い出をたくさん作りそれぞれの地域に戻りました。

● 2017年の活動

広島平和学習旅行（大分中部支部）

大分中部支部では年間生３名の春休み期間中に広島へ平和学習旅行に行きました。千羽鶴を供えましたが、折る時はクラスメートにも手伝ってもらった生徒もいて、学校でもうまく溶け込めていることがわかりました。夜には平和学習として参加者が広島・原子爆弾・世界平和についてそれぞれの意見を述べ合いました。

留学生のお国料理自慢と語学生歓迎会（奈良支部）

７月23日、大和郡山市の三の丸会館調理室で「留学生のお国料理自慢と語学生歓迎会」を行いました。３月に来日した年間留学生４名はそれぞれ自国の料理をホストファミリーと協力して作ってくれました。支部員も合わせて全部で40名程度の参加者でにぎやかに、もちよりのお料理もあり美味しく楽しい時間を過ごしました。

ホストスクールレポート

タイの生徒を受け入れたホストスクール（’16-’17）

バンちゃんが配属されると分かった時点で、英語が話せない私が担任で大丈夫かと、とても不安に感じました。しかし、実際にバンちゃんに会ってみると、その不安はかなり吹き飛びました。彼女は、まじめでおだやかな人柄だったからです。クラスの生徒たちもこちらから指示しなくても積極的にコミュニケーションをとり、バンちゃんの世話をしてくれました。誰もが、バンちゃんをクラスの一員として疑わない状況になるまで全然時間がかからなかったのです。10代の生徒たちの適応力には目をみはるものがありました。バンちゃん・本校の生徒双方が成長していく過程を見ることができたのは、私自身にとっても意義ある経験となりました。（名古屋大学教育学部附属中・高等学校）

ホストファミリーレポート

パナマの生徒を受け入れているホストファミリー（’17-’18）

うちにリズが来てからは、毎日みんなで笑って、真に笑顔が絶えない家庭って、こういうものなのだなということを実感する毎日です。子ども達にリズとの生活の感想を聞くと、「リズがいつも大笑いで笑っていて面白いし、温かさを感じる」（小６男子）「家が賑やかになった」「パナマの人って会うまでは想像できなかったけど、おしゃれで面白い、優しい」（小４女子）ということを教えてくれました。リズが相当な長時間日本語の勉強や宿題をしているので、子ども達もリズの隣で一緒に勉強している風景が見られ、子ども達はよく勉強するようになったかもしれません。リズと一緒の生活は、本当にスペシャルで、楽しい日々です。

受入生レポート

ニュージーランドからの受入生（’16-’17）

ニュージーランドの学校は３時までだけど、日本は部活があるから時々６時までです。それはびっくりしました。ぼくはバスケットボールの部活に入りました。初めてのスポーツをためしたかったから。日本では１年間スポーツはずーっとあります。ニュージーランドでは１つのスポーツは４か月くらいしかしません。そしてとてもびっくりしたことは夏休みも部活があるからまた学校にいきます。それと休みにたくさんしゅくだいをもらいます。そして大人もよくはたらいています。ですから、高校生はいつも忙しいです。ぼくは日本に来て、日本人はいつもいそがしいことを知りました。

ホストファミリーになる

異なる文化や考え方の人と折り合いをつけながら仲良く暮らしていく「多文化共生」への注目度が高まっています。グローバル化が加速し、日本国内でも働いたり、学んだり、生活する中で様々な変化を感じ始めているのではないでしょうか。自分だけが世界とつながるのではなく、同じように変化の時代を生きている家族みんなで異文化体験ができる、それがホストファミリーです。日本各地で常時募集していますので、まずはお気軽にご相談ください。

問い合わせ先：
公益財団法人AFS日本協会
TEL：03-6206-1911
E-mail：info@afs.or.jp

ボランティア活動に参加する

日本でも、異文化交流を通じて平和な世界を築きたいと願うAFSの趣旨に賛同するボランティアたちが、約65年間にわたって高校生留学や国際交流活動を支えてきました。留学生活の適応サポートやイベントの企画・運営などを通して、異文化・相互理解について一緒に学びませんか？定期的にボランティア説明会も開催しますので、ぜひご参加ください。（「AFSボランティア」で検索）

各種ニュースや体験談はホームページ（www.afs.or.jp）でご覧いただけます。

ICL

教育団体に向けて-ICL®の取り組み

AFSが留学の機会を提供する団体に留まらず、教育団体としてさらに飛躍するためにネットワーク各国で取り組みを進めているICL®（Intercultural　Learning／異文化学習）。

日本協会では、昨年からAFSボランティア・職員を対象としたICLの基礎研修「レベルW」の開催を各地でスタートし、今年８月末時点までに約220名が修了しました。この研修は、異文化に直面したときの対処法やモデルなどを、理論とアクティビティを通して１日かけて学ぶ構成になっており、日本国内だけでなく、全世界のAFSで実施されています。その修了者数は5,000名を超え、AFSのグローバル・コミュニティの新たな「共通言語」になりつつあります。

また、この研修をボランティア主体で運営できるよう、ファシリテーター養成の取り組みも並行して行っています。今年２月には大阪で１泊２日のファシリテーター勉強会を開催し、各地から参加した約20名のボランティアが共に学び、アイデアやノウハウを共有しました。さらに一歩進んで、何名かはAFS国際本部が主導する認定トレーナー研修にも参加しています。

研修以外では、オリエンテーションを含むプログラムや各種資料をICLの観点から再構築したり、異文化理解や教育に携わる諸団体と協働したりするなど、教育団体としての可能性を広げられるような活動に取り組んでいく予定です。

ICL研修@インド体験談

インドでの ICL 研修にて AFS の根源に触れる

「なんか、おもしろそう」最初に日本で ICL®（Intercultural Learning ／異文化学習）のボランティア向けトレーニングの導入を聞いた時の印象です。インドの ICL 研修では、朝は９時から夜の 20 時まで、みっちりと ICL の内容だけでなく、トレーニングの技術についても学びます。参加者はインド、フィリピン、タイ、香港からで、下は大学に入ったばかりの若い人から、上は仕事をリタイアした還暦過ぎの人まで、年齢も様々です。なんで英語が出てこないのだろうと落ち込む私を、本当に分け隔てなく、サポートし励ましてくれました。「できない自分」と向き合うのは、とても辛かったのですが、「できない私」であっても辛抱強く受け入れてくれるという経験は、まさに AFS 的であり、この年になってこのような経験ができたのは、幸運であり、感謝の思いでいっぱいです。

はからずも、ICL を超えた AFS の根源としての部分に触れた研修となり、今後の留学生のサポートに生かしていきたいと思います。

その他の活動

AFS 友の会

「AFS 友の会」とは、AFS に関わるすべての人を対象にしたネットワークです。お互いの親睦を深めると同時に、AFS 活動の継続・発展のために協力・支援することを目的としています。

「AFS 友の会」事務局（AFS 日本協会内）E-mail：tomo@afs.or.jp　FAX：03-3507-4300

活動報告

長井鞠子さん
撮影：石黒健治さん

2月11日　新春の集い
「伝える極意」
【講師】長井鞠子さん
AFS８期生　'61-'62　米国　会議通訳者

大石芳野さん
撮影・山下純司さん・共同通信社

8月26日　「レンズを通して考えること」
【講師】大石芳野さん
フォトジャーナリスト

10月2日　チャリティーコンサート
～秋に捧げる珠玉の木管五重奏の響き～
【出演】木管五重奏団「クインテット・アッシュ」
濱崎由紀さん（クラリネット）、宮崎由美香さん（フルート）、最上峰行さん（オーボエ）、石川　晃さん（ファゴット）、日橋辰朗さん（ホルン）
【司会】秋沢淳子さん
AFS32期生　'85-'86　ニュージーランド
TBSアナウンサー

開催予定

12月2日　ネットワーキングの集い
【講師】福山大樹さん
AFS日本協会理事、AFS38期生　'91-'92 スウェーデン
合同会社　FIKA（フィーカ）、UNPLAN Kagurazaka　代表取締役

2月18日　新春の集い
【講師】大江英樹さん
経済コラムニスト、京都観光文化検定一級保持者

開催予定のイベントの詳細はホームページ（www.afs.or.jp）でご覧いただけます。

＊AFS友の会では、皆さまからの投稿ならびに、友の会を一緒に運営していただける有志を求めています。ご興味のある方は、AFS友の会事務局までご連絡ください。
＊友の会イベント情報をメール配信いたします。AFS友の会事務局までご氏名、AFSとの関係をご連絡ください。

AFS×認定NPO法人難民支援協会（JAR）

#AFS effect 難民問題を考えよう

留学を通して難民問題に興味を持った帰国生（AFS63期生 '16-'17）（在新潟の高校生）の発案により、2017年７月１日、認定NPO法人難民支援協会の田中志穂さん（AFS40期生'93-'94）のご協力のもと、AFS帰国生対象のミニコラボイベントを開催しました。当日は留学を通じて、また学校での勉強、ニュースなどで感じた難民に対するそれぞれの意見が活発に飛び交いました。

AFS×立命館アジア太平洋大学（APU）

進学座談会

2017年８月１日AFS学生ボランティアを中心とした大学生が立命館東京キャンパスをお借りして、中高生のための大学進学座談会を開催し、100名以上の高校生やご父兄が参加しました。留学後の進路について熱心に質問する高校生たちの姿が印象的でした。

AFS友の会活動やその他イベントのレポートはホームページ（www.afs.or.jp）でご覧いただけます。

AFSの理念

AFSの目的

AFSは国際的なボランティア団体であり、営利を目的としない民間の組織である。

より公正で平和な世界の実現に必要な知識、能力、理解力を多くの人びとが身につけるため、さまざまな異文化と接する機会を提供することを目的とする。

AFS Statement of Purpose

AFS is an international, voluntary, non-governmental, non-profit organization that provides intercultural learning opportunities to help people develop the knowledge, skills and understanding needed to create a more just and peaceful world.

AFSの基本的価値観と立場

多様性に満ちた世界において、平和と相互理解の推進のため行動する、責任ある地球市民を育てようとAFSは考える。平和は常に、不正、不公正、偏狭な心によって脅かされる危ういものだと認めるからである。

AFSはすべての個人すべての国と文化に、それぞれの尊厳と価値があると確信し、その考えが広く確立されるよう努力する。そして、人種、性、言語、宗教、社会的地位の違いとは無関係に、人権と基本的自由が尊重されるよう、その実践を推進する。

AFS活動は人間の尊厳、違いの尊重、調和、感受性、寛容の精神という基本的価値観に基づいて行われる。

-1993年開催　AFS世界会議で採択

The Core Values and Attributes of AFS

AFS enables people to act as responsible global citizens working for peace and understanding in a diverse world. It acknowledges that peace is a dynamic concept threatened by injustice, inequity and intolerance.

AFS seeks to affirm faith in the dignity and worth of every human being and of all nations and cultures. It encourages respect for human rights and fundamental freedoms without distinction as to race, sex, language, religion or social status.

AFS activities are based on our core values of dignity, respect for differences, harmony, sensitivity and tolerance.

-Adopted at the 1993 World Congress

事務局からお知らせ

住所等の変更について

お住まいやご連絡先に変更のあった方は、同封の「会員連絡用シート」を事務所宛てにファックスしてください。AFSのホームページ（「Home」⇒「AFSとは？」⇒「AFS友の会・会員情報の変更」）でもお手続きいただけます。

ホストファミリー募集のポスター掲示にご協力ください。

現在、鉄道駅等でのポスター掲示のご支援をいただいておりますが、個人でポスター掲示にご協力くださる方も募集しています。

AFSではホストファミリーを見つけるのが年々難しくなっています。ホストファミリーが見つからないと、日本への留学を希望する各国の高校生の来日が叶いませんので、お子様が通われている幼稚園や小学校、地域の活動施設、お知り合いのお店などに掲示いただけますよう、ぜひ皆さまのご協力をお願いいたします。

▶ご協力いただける方は、ポスター送付先住所・氏名と希望枚数を下記までお知らせください。

事務局　広報　03-6206-1911　koho@afs.or.jp

発行

UNESCOオフィシャルパートナー

公益財団法人AFS日本協会

〒105-0001　東京都港区虎ノ門1-22-14
ミツヤ虎ノ門ビル7F
TEL：03-6206-1911
FAX：03-3507-4300
http://www.afs.or.jp/

AFSは「持続可能な開発目標（SDGs）」をサポートします。

AFSは、国連が2030年に向けて採択した「持続可能な開発目標（SDGs）・世界を変えるための17の目標」のうち、目標4と目標16が、世界をよりよい場所にするために役立つ行程であると考えています。

発行年月日　2017年11月10日